

# こども支援アセスメント通信 vol.3



「まだ経験が浅く、個別支援計画の目標設定がとても難しい」という児童発達支援管理責任者（児発管）の悩みを多く耳にします。目の前のお子さんたちは皆、能力や特性、生活環境が全く異なっているので、児発管は一人一人のお子さんの発達を予測しながら個性のある具体的目標と支援計画を作成しなければなりません。経験を積んだベテランでも悩むことの多い目標設定ですが、同時にやりがいを感じられる部分でもあります。その「目標設定の考え方」について、今回と次回の2回の通信でお伝えします。

## 目標設定の考え方 ～架空事例から～



目標設定の考え方について、児童発達支援や放課後等デイサービスの事業所で実際によくある目標設定を例にして、一緒に考えていきましょう。

### 事例 1

- ▶ 自閉症スペクトラム疑いの3才児の個別支援計画(継続支援)の目標設定
- ▶ 親の意向「友達と仲良く遊べるようになってほしい」

長期目標(6か月)	短期目標(3か月)	具体的支援
① 集中して遊べるようになることで、遊びの幅が広がり、友達と上手に遊べるようになる。	① 集中して活動に取り組めるようになる。 ② 友達に自分の気持ちを伝えられるようになる。	▶ 落ち着かない時は静かな環境を提供します。 ▶ 他のお友達や先生と関わる機会を増やし、話す言葉を引き出します。

### (1) 目標は課題ごとに分けて記載する

この事例の長期目標のように、支援するポイントが違う複数の課題を全部1つにまとめて記載してしまうと、何に対する支援をどのレベルまで目指すのか、どれも曖昧になってしまいます。複数の課題がある場合は、1つずつ目標を分けて記載しましょう。 別に分けることによってモニタリングの分析や達成度の評価が明確になります。

長期目標(6か月)
① 集中して遊べるようになることで、遊びの幅が広がり、友達と上手に遊べるようになる。



長期目標(6か月)
①集中して遊べるようになる。
②遊びの幅を広げる。
③友達と上手に遊べるようになる。

このお子さんにとっての「集中」とはどのような状態なの？  
どのような遊びができれば「幅が広がった」といえるの？

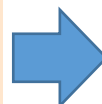
### (2) アセスメントから具体的な目標を考える

この事例の長期目標を課題別に分けてみると、右の①～③になります。端的にはなったものの「集中する」「幅が広がる」「上手に遊ぶ」といった抽象的な表現のため達成状況が判断しにくく、モニタリングの客観的評価が難しくなると予想されます。目標は、達成したと判断するための指標が必要です。 アセスメントを踏まえ、達成状況がわかる具体的な目標を考えましょう。

では、さっそくこのお子さんのアセスメントを確認し、具体的な目標を考えてみましょう。

#### 遊び場面の観察によるアセスメント結果

- ▶ 視野に入った人やもの、聞こえてきた音にすぐ気付いて遊びが中断する。
- ▶ 手元を見ないで操作するため、最後まで操作できず諦めることが多い。
- ▶ すぐに床に寝転がってしまう。椅子座位でも姿勢が崩れやすい。
- ▶ 友達とは関わらずいつも1人遊び。大人には身振りや要求を伝えられる。



#### 見えてきた課題

- ▶ 視覚、聴覚刺激に注意が向きやすい。
- ▶ 目と手の協調動作が未熟。
- ▶ 座位姿勢が続けられない。
- ▶ 友達との関わりは見られず、コミュニケーション評価がさらに必要。

### (3) スモールステップで達成できる目標を考える

アセスメント結果から見えた課題より、下表のように具体的な内容の目標を考えてみました。

長期目標(6 か月) (修正例)	短期目標(3 か月) (修正例)	具体的な支援内容(修正例)
① 椅子に座って活動に参加できる。 ② 目で見て道具を操作する活動に取り組むことができる。 ③ 生活の中で担当職員と日常のあいさつ等の簡単なやりとりができる。	① 調整された環境であれば、椅子に座って10分間活動できる。 ② ①の中で、目で確認しながら操作して遊べるおもちゃの種類が増える。 ③ 担当職員とおもちゃ等のものを介した簡単なやりとりができる。	▶ 視覚、聴覚刺激を減らした環境設定とする。 ▶ 目と手の協調が必要なおもちゃで遊ぶ機会を増やす。 ▶ 姿勢が崩れにくい椅子と机で活動する。 ▶ 担当職員と1対1で関わる時間を作る。

親の意向も汲んで設定されていた「友達と上手に遊べるようになる」という最初の長期目標は、このお子さんの特性や現在の遊びの様子から見ると、ハードルが高く達成が難しいと思われたので、まずは大人との1対1の関わりを築く段階からの目標としました。親の意向を汲みつつも、お子さんの現段階に合った目標を設定するとよいでしょう。

重要なことは、短期目標というスモールステップの先に長期目標がくるよう、段階的な目標を設定することです。児発管には、アセスメント結果に基づいて達成可能な目標を段階的に設定するスキルが求められます。

#### 事例 2

- ▶ 運動発達がつかまり立ちレベルの2才児の個別支援計画(継続支援)の目標設定
- ▶ 親の意向「毎日楽しく通ってほしい」「体力をつけて少しでも歩けるようになってほしい」

長期目標(6 か月)	短期目標(3 か月)	具体的支援
① 心身ともに安定した生活を送ろう。 ② 体力をつけよう。	① けがをせず、友達と楽しく活動に参加しよう。 ② 部屋の中で歩く練習をしよう。	▶ けがをしないよう安全に配慮しながら、友達と楽しく過ごす機会をつくります。 ▶ 活動の中で、歩行練習できる機会をつくります。

#### (1) 個別性のある目標を設定する

長期目標①「心身ともに安定した生活を送ることができる」、短期目標①「けがをせず、楽しく活動に参加しよう」は通所するお子さんの皆に当てはまるもので、事業所を運営していく上で、ごく当たり前の支援内容とも言えます。目標は一人一人のお子さんの個別性を反映させた具体的な内容で設定することが大事です。アセスメント結果からこの目標がそのお子さんにとってなぜ重要なのか、目標の文面からも分かるように具体的に記載した方が良いでしょう。

#### (2) 事業所として対応可能な目標を考える

肢体不自由等で運動発達に課題のあるお子さんの個別支援計画の中には、医療機関のリハビリテーション専門職が行っている治療(訓練)を目標や支援内容に設定しているケースを見かけます。親の意向で「歩けるようになってほしい」とあれば、尚のこと計画に反映させたくなるものです。しかし、病院の専門職が治療で行っている訓練内容を専門職でない事業所職員が同様にすることは大変難しく、本人の運動発達にはまだ早い段階の動きをさせてしまったり、怪我のリスクも出てきます。

事業所に求められている役割や自分達に対応できる範囲をよく検討し、事業所の強みを活かした目標や支援内容を設定することをお勧めします。

- ★ 次回も引き続き「**目標設定の考え方**」についてお伝えします。
- ★ **目標設定で実際に悩んでいる事例や聞いてみたいことを募集**します。お気軽にメール・FAXで送ってください。

[発行・問い合わせ先]

宮城県仙台保健福祉事務所 健康づくり支援班  
 〒985-0003 宮城県塩竈市北浜4丁目8-15  
 TEL/FAX: 022-363-5503 / 022-362-6161  
 メール sdhwfzke@pref.miyagi.lg.jp